

～誰もがふらっと立ち寄れる場所がイベントではなく、日常的にあったら～

インターネットで情報が溢れ、アバターやバーチャルといった世界を介して生きる時代に疑問を感じ、子供、学生、現役世代から高齢者まで世代を超えて交わる場所が日常的にあったら、もっと人間関係がスムーズに、誰もがお互いに元気をもらい、気を取り直して又生き生きと過ごせるのではないかと常々考えています。

家でもなく学校や職場でもなく利害関係のない第3の居場所で、年齢、性別、肩書に関係なく様々な立場の人が自然に対話でき、少しでも心穏やかにほっとできる場所が**日常的に日本全国あちらこちら**にあったらと想像します。

- ・核家族化している現代で、こどもたちが親以外の大人やおじいちゃんおばあちゃんに接することで優しい気持ちが育つ。高齢者は、子どもたちから元気をもらえる。
- ・子育て中のお母さんを孤立させず、日常の中で自然に支える。
- ・現役世代の大人たちの息抜きの場になる。
- ・学生や若者たちは、社会人の話を聞く機会ができる
- ・出会いの場が広がり情報交換したり視野が広まったり、人と人を繋いで若者の後押しができたり、少子化対策にも繋げられるのでは？ 等々

そこで、ポイントは2つ。

【場所づくり】

- ・公共の乗り物が使え、無理なく行きやすい場所
- ・建設会社や建築設計会社のアイデアやお力添えを頂いて、空き家、空き店舗、空き倉庫等をゆったりした雰囲気や暖かい清潔な魅力的なスペースに生まれ変わらせる。

【運営】

- ・ふらっと立ち寄った誰にでも話しかけることができる昔の世話好きな人を配置
- ・主婦や元気で時間があるリタイヤー高齢者や大学生など若者たちみんな、それぞれが都合の良い時間帯を担当し、土日も閉めることなく、そこに行けば誰がいるよ！の体制。
- ・お料理好きの方による軽食提供・食のあるところは心が和む
- ・生活の困りごと解決には、役所や公民館や自治会館など公的機関の窓口の案内もできるようにしておく（こういう時はこんな窓口があるよ）
- ・こどもたちも立ち寄りやすいようにおやつ(駄菓子や福祉施設の焼き菓子など)も準備して、忙しい親の代わりに親以外の大人とお喋りするきっかけをつくる。(お小遣いを持たない子は、そこで何かお手伝いをするなど)

* 構想途中ではありますが、人と人が直接対話をしてふれあえることで、お互いに支えあい応援しあえる街づくりを是非実現させたいと切望しています。